

公益社団法人信和会 2014年度事業活動・経営報告(抜粋)

2015年5月14日 法人決算監査
 2015年5月19日 法人常務理事会
 2015年5月26日 法人理事会

【1】事業活動報告

(1) 信和会の概況

信和会は、14年度の事業計画の柱として、「学び、つながり、広げる。医療・介護一体となって力量向上を図り、地域の様々な方と対話しつながりながら、真の地域包括ケア体制の実現と憲法の守られる自治体・国づくりを目指そう」のスローガンの下、

- ①認知症への対応力向上を法人あげて進める一認知症サポーター職員比率 50%目指す
- ②来たるべき地域包括ケア時代の一翼を担うべく、法人内外の事業所・共同組織との連携・協働を強める一法人外事業所への訪問対話行動、および地域ケア会議への参加回数に各事業所年間目標を持って臨む。医療・介護一体となったサービス提供を支えるインフラ特に電子カルテの可能性などについて意見集約を図り、検討開始する
- ③在宅管理件数は、法人合計で 2013 年度比 1 割増を目指す
- ④法人外来患者数は、2014 年度合計で 2012 年度合計の回復を目指す
- ⑤法人利益目標(必要最低利益3%)を達成する
- ⑥法人全介護職を対象にした議論を通じ、受け入れ・育成・配置に関する法人政策を確立する。合わせて介護職の管理・役責者登用について目標を持って実行する。
- ⑦人材育成を促進する組織活性化手法について学習・導入を進める
- ⑧社会保障の拡充や誰もが住み続けられる街づくりをすすめる運動の一翼を担って活動する

以上の8つの品質目標を掲げて実践しました。

予算の柱は、「医療・介護サービスの供給元を将来的に再編する」ことを狙いとしたマイナス1.26%という厳しいマイナス診療報酬改定の中で、第1に引き続き法人全体として3%の必要利益を確保し、第二中央病院南館リニューアルや東山診療所の新築移転などの次期展開の財務的保障を作り上げること、第2に総ての事業所で必要な改訂対応をやりきりながら地域際での機能確立を進め、全エリアで黒字確保(茶山のさと単年度で黒字化)すること、第3に事業計画を推進する職員の確保と育成を徹底してすすめることとしました。

各エリア・事業所の事業計画と予算のポイントは以下の通りです。この視点から、エリア・事業所の年間到達の分析と総括、次期に繋がる課題を鮮明にする必要があります。詳細は、添付した別紙事業所報告を参照してください。

エリア・事業所	14年度事業・予算のポイント
第二中央病院エリア	看護師の確保と定着の課題を引き続き前進させ、病床の安定稼働を行う。4/1改訂への対応から、各種届け出について確実に実施すると同時に、回復期リハ(I)の維持と併せて、第1四半期中に地域包括ケア病床の選択について判断する。内科と在宅をメインとするあすかい診療所の運営をより重視し、減少傾向にあるエリア外来患者数の回復を目指す。改訂でもプラス反映のある医科・歯科連携をより前進させる。介護事業の安定的運営をすすめると同時に、大型化したステーションの機能と地域で果たすべき役割について積極的に検討する。南館リニューアルプロジェクトを継続開催し、構想と機能、費用、人員など総合的な検討を継続する。
川端診療所エリア	旺盛な地域対策をすすめ、続いている外来患者減に対して歯止めをかけると同時に、透析の安定的運用をより重視して取り組む。高齢者の慢性透析に於けるすまいの問題について検討を継続する。
東山診療所エリア	外来・在宅・訪問看護・訪問介護・DS・助け合いと生活援助などの総合力を活かし、近隣病院との連携を引き続き重視して在宅管理の更なる前進を図る。診療所新築移転に向けての検討を継続する。

洛北診療所	数少ない人口増加地域の中で、共同組織とともに引き続き地域対策を重視して進めながら、小児から大人まで総合的に診ることができる診療所の特色を活かし、外来・在宅を中心とする事業展開を継続する。
大宅診療所	7月に予定している大宅総合ステーション開設の準備を滞りなく進め、エリアとして医療・介護の事業展開を引き続き進める。開設 30 年の節目であり、行政区唯一の民医連事業所として共同組織と共に地域のネットワークづくりの前進を図る。
茶山のさと	開所4年目を迎える年度であり、嚥下摂食分野などで高まっている社会的評価の前進をより計りつつ、在宅分野を支える法人の医療・介護の連携の要として、入所・短期・通所・相談など総合的な事業展開をより重視して取り組み経営改善に努め年間で黒字化を目指す。介護職の人材受け入れ・育成・配置に関する法人政策の実践分野で積極的な役割を發揮する。

以上の事業と経営計画を進めるため、法人は常務理事会の下に以下のプロジェクト(チーム)を設置し推進を図りました。

<事業展開>

- ①南館リニューアルPJ <継続>
- ②東山新築移転PJ <再開>
- ③山科総合ケアステーション調整会議 <継続>

<機能と運営>

- ①事業構想調整のためのヒアリング及び懇談の実践 <新規>
- ②共同組織・基金(協力金)PJ <継続>
- ③ISO 課題の推進 <継続>
- ④信和会 60 周年企画検討チーム <新規>
- ⑤次期役員検討チーム <新規>

法人長計の分野では、第二中央病院南館リニューアル検討プロジェクトを重ねながら病棟構想・人員体制・経営シミュレーションなどの検討を進めました。第2回理事会(14/9/30)第3回理事会(14/11/25)でプロジェクト答申を審議し、現地改築の基本方向を確認しました。これ以降、常務理事会の下にあったリニューアルプロジェクトを終了し、第二中央病院常務会の下に新たに建設委員会を設置して様々な改築準備を進めてきました。東山診療所の新築移転に関しては引き続き情報収集と検討を進めいくつかの情報提供を受けましたが、物理的な側面で判断できる物件ではありませんでした。プロジェクトは年間を通して開催されていません。

入院機能の分野では、年間を通して全病床のフル稼働と報酬改定への対応として地域包括ケア病棟の導入を行いました。在宅分野では、機能強化型の在宅療養支援病院・支援診療所連携の機能の確立と充実を一層すすめました。

介護分野では、課題としている住まいに関する具体的な提言には至っていませんが、患者・利用者ニーズを基にしたエリア及び事業所との事業展開に関する懇談をすすめました。今後、洛北と第二エリアでの懇談が終了でき次第、法人介護部として課題整理を行い、執行計画を検討します。

法人としては初めての試みとなる訪問看護・訪問介護・居宅の3機能を持つ総合ケアステーション山科南(訪問看護STひまわり・ケアプランセンター虹・訪問介護STとまと)を新規開設しました。事業と経営改善の課題を統一して取り組んでいくことが継続した課題です。

ステーションの大型化と機能強化はST所長委員会でも検討を継続しました。左京事業所の統一の教訓を踏まえ、行政区を超えて進められるかどうか検討の場が継続的に確保されてきています。

法人制度改革に伴い14年4月1日より公益社団に移行しました。公益社団としての社会的役割の理解やガバナンスの徹底などの対応を重視して取り組みました。検討チームは5月で終了し、今後は日常運営の中で機能の定着と必要な改善対策を進めることとしました。

共同組織の統一整備を進めながら、法人の新規事業にタイアップした目的債の開始について検討しました。15年初頭には第二中央病院リニューアル・東山診療所新築移転を目的とした建設協力金の募集を開始します。

ISO については、前期末受審であった左京南包括支援センターを含めて維持審査に取り組みました。その結果、「マネジメントシステムの一部に不適合事項が見られたが、当該不適合事項の是正対応により規格要求事項等の審査基準に適合と判断でき、またシステムの運用状況については認証を阻害する重大事案はないことから、是正対

応の確認後、認証維持を推薦」との評価となりました。また部署事業所ごとの理解や取り組みのばらつきが見られません。部署支援の仕組み、ライン上の運営との重複を削減した効率化、安全上のインシデント・アクシデントの是正のみならず、サービス面での向上の努力を評価する仕組みづくりなどが課題となっています。

信和会および第二中央病院が60周年を迎えるに当たり、法人内の事業展開と連動した関連企画を検討しました。5月30日に記念レセプション、7月12日にしんわかいまつり(みやこめっせ)を開催します。年間を通して、信和会の歴史に学びながら新しい事業展開への確信を深める記念イヤーとして取り組みます。

次期法人総会(15年6月)に向けて法人役員の考え方と構成について検討を継続しました。

<2014年度目標についての評価>

第1の柱である認知症サポーター養成の課題は、多くの事業所で位置づけて取り組み、全体は目標を超える56.7%の到達となりました。

第2の柱である地域包括ケア時代への対応課題は、東山の事業所訪問行動、川端の地域ケア会議への参加、茶山の左京保健センター訪問、第二中央の地域ケア会議や懇談への参加、洛北での地域ネットワークへの日常的なかかわりなど、貴重な経験が数多く生まれました。大宅(山科)では、地域性もあって具体化が遅れています。電子カルテはリプレイス検討が開始されました。情報システム課の日常的な管理と業務確立や介護分野での有効利用については継続した研究課題となっています。

第3の柱—在宅管理件数延べ数1割増の課題、第4の柱—法人外来患者件数2012年度実績回復の課題、第5の柱—3%必要利益の確保の課題の到達評価は後述します。

第6の柱の介護(職)分野の課題では、政策化や集団化などで大きな前進を築きましたが、管理役責登用に関する目標設定は今後の課題です。きょうと福祉人材育成認証制度の対象事業所に認証されるなどの前進がありました。

第7の柱の人材育成を促進する組織活性化手法の学習・導入については、中堅研修の工夫や教育委員会での学習の進展など部分的な展開にとどまりました。

第8の柱のまちづくりと社会保障拡充の運動については、秋の月間や沖縄基地問題などについて年間を通して共同組織とともに大奮闘しました。

(2)各事業所の概況については、事業所毎の年度決算資料をご参照ください。

【2】法人組織の概況

(1)社員総会、理事会、常務理事会の開催状況と決議

1)社員総会の決議

開催日時	社員総数	出席(本人、委任)	重要な議事・決議事項
14年05月30日(定時)	108名	104(41、63)	13年度事業報告・決算報告・定款変更
15年03月31日(臨時)	105名	95(51、44)	第二中央病院南館改築計画・役員選考委員会
平均出席率	93.4%(46、53)		前年 92.8%(45、59)

2)理事会の開催状況

開催日時	定数	出席	重要な議事・決議事項
14年07月22日 (第1回)	25	18	14年第一四半期経営状況、14年度事業計画の進捗、品質目標の交流。
14年09月30日 (第2回)	25	18	14年上半期状況、第二中央病院南館改築計画、14年度事業の進捗、総合ケアステーション山科南の開設。
14年11月25日 (第3回)	25	22	14年度上半期経営到達と下半期対策。監査報告。14年度事業計画の進捗、第二中央病院南館改築答申の審議、60周年記念事業、短期借り入れ。
15年01月27日 (第4回)	25	18	14年度事業計画の進捗、15年度予算と法人品質目標、下半期法人機関運営、南館改築事業。

15年03月24日 (第5回)	25	18	14年度事業計画の進捗、15年度予算の確定、南館改築事業、臨時社員総会運営。
15年05月26日 (第6回)	25	19	
平均出席率	(75. 3%)		前期 78. 9%

3) 常務理事会の開催状況

開催日時	定数	出席	重要な議事・決議事項
14年06月17日 (第1回)	9	9	経営状況。看護学生奨学金の改善対策。看護師キャリア法人養成規定。平和塾推薦。
14年07月15日 (第2回)	9	8	第1四半期経営状況。14年度事業計画。60周年記念事業。京都市民医連総会への対応。
14年08月19日 (第3回)	9	9	南館改築計画。総合ケアステーション山科南の開設準備。ISOの維持審査結果と評価。秋の月間課題。福知山豪雨災害への支援対応。
14年09月16日 (第4回)	9	9	あすかい診療所事務長交代。総合ケアステーション山科南の開設。経営課題。事業展開に関する東山懇談。法人機関会議へのオブザーバー参加の見直し。理事個別状況。
14年10月21日 (第5回)	9	9	上半期経営到達と下半期課題。決算監査対応。事業展開に関する川端懇談。60周年記念事業。南館改築事業。電子カルテリプレイス課題。
14年11月18日 (第6回)	9	9	上半期決算。資金繰り・賞与借入。ISO マネジメントレビュー。南館改築計画承認のための臨時社員総会召集の検討。建設委員会の設置。事業所個別事例。年末路上生活者支援行動。
14年12月16日 (第7回)	9	9	経営状況。第二中央地域包括ケア病棟入院料届け。経営状況。病院南館改築課題の進捗。電子カルテリプレイス課題。15年度事業予算および品質目標の検討。
15年01月20日 (第8回)	9	9	経営状況。STひまわり対策委員会の設置。事務の中途採用計画。事業計画の進捗。15年度事業・予算計画、品質目標。予算検討テンポ。事業所個別事例。
15年02月17日 (第9回)	9	9	経営課題。高野地域包括ケア会議。14年度事業の進捗。15年度事業及び予算検討の進捗。
15年03月17日 (第10回)	9	8	経営課題。電子カルテリプレイス業者の選定。介護報酬改定への対策。15年度予算。部委員会14年度総括と課題。信和会共済会の設立。臨時社員総会運営。
15年04月21日 (第11回)	9	9	法人看護部の設置。経営課題。決算作業テンポ。南館改築課題の進捗。60周年記念事業。事務幹部移籍問題。次期役員選考の視点。個別医師問題。5月路上生活者支行動。
15年05月19日 (第12回)	9	9	14年度決算・事業総括。社員総会運営。
平均出席率	98. 1%		前期 94. 9%

社員総会、理事会(常務理事会)とも定期的な開催・運営を行いました。臨時開催は、第二中央病院南館改築事業の審議と承認のために臨時社員総会を1回開催しました。社員総会は前期92. 8%から93. 4%へと前進しました。理事会は、年間を通して欠員1名、年度途中で欠員1名、更に長期の病気療養などが発生し、参加は78. 9%から75. 3%となりました。常務理事会は94. 9%から98. 1%と前進しました。常務理事会運営を補完し課題遂行する目的で、法人事務系常務理事・事業所事務長・病院事務長室・本部員合同会を毎月定例開催しました。年度途中より、法人本部会議を開催しました。日常的な振り返りと次期体制を検討することを目的に、理事長・看護部長・専務理事によ

医科診療所	5	5	5	6	5	5	5	5
歯科診療所(併設)	1	1	1	1	1	1	1	1
訪問看護ステーション	3	3	3	3	3	3	2	3
ヘルパー派遣事業	2	2	2	2	2	2	2	3
デイサービスセンター	2	2	2	2	3	3	3	3
介護老人保健施設					1	1	1	1
施設数合計	14	14	14	15	16	16	15	17

3) 介護保険指定事業所

サービス種別	事業所名	指定年月日	事業者番号	備考
(介護予防)訪問介護	こでまり	00/4/1	60690021	たんぼぼ併設
	くるみ	01/2/1	60890035	どんぐり併設
	大宅診療所	02/6/1	14102230	診療所併設 14/9/30 移行
	とまと	02/6/1	64190085	14/10/1 大宅診より移行
(介護予防)訪問看護	たんぼぼ	00/4/1	60690021	
	ひまわり	01/7/1	60690070	14/2/28 付け廃止
	どんぐり	00/4/1	60890035	
	洛北診療所	00/4/1	10606093	診療所併設 みなし指定
	大宅診療所	02/3/1	14102230	診療所併設 みなし指定
	ひまわり	14/7/1	64190085	14/7/1 新規開設
(介護予防)通所介護	高原デイサービス	03/4/1	70600440	定員 25 名
	泉涌寺湯デイサービス	03/4/1	70800198	定員 22 名
	田中デイサービス	11/3/1	70600713	定員 15 名
(介護予防)通所リハビリ	第二中央病院・なの花	00/4/1 09/3/1 12/11/21	10601342	定員 40 名 みなし指定 定数 30 名 2 単位に変更 定員 30 名 1 単位に変更
	川端診療所	00/4/1 09/3/1	10604080	定員 20 名 みなし指定 定数 30 名 2 単位に変更
	東山診療所	00/4/1	10803013	定員 28 名 みなし指定
	大宅診療所	02/3/1	14102230	定員 20 名 みなし指定
	介護老人保健施設茶山のさと	11/11/3	50680099	定員 30 名 (2013 年 4 月 1 日より定員 35 名)
(介護予防)短期入所療養介護	第二中央病院	00/4/1 11/11/2	10601342	廃止
	介護老人保健施設茶山のさと	11/11/3	50680099	
居宅支援事業	川端診療所	00/4/1	10604080	
	大宅診療所	02/3/1	14102230	診療所併設 14/9/30 移行
	ケアプランセンター虹	02/3/1	64190085	14/10/1 大宅診より移行
	どんぐり	00/4/1	60890035	
	ケアプランセンター飛鳥井	06/10/1	70600572	第二より移行
(介護予防)訪問リハ	第二中央病院	10/1/1	10601342	みなし指定
居宅療養管理指導	あすかい・あすかい歯科・川端・洛北・大宅・東山	00/4/1		みなし指定
介護予防支援事業	左京南包括支援センター	06/4/1	00600023	

介護療養型老人保健施設	介護老人保健施設茶山のさと	11/11/3	50680099	
-------------	---------------	---------	----------	--

(3) 共同組織の状況 略

(4) 役員の状況 略

(5) 常勤職員の状況(各年度期末現在数) 略

【3】経営の概要

(1) 経営活動の結果

14年度決算結果は、経常利益で188,245千円・収益比3.5%(前年198,196千円・3.6%)となり、予算目標である必要最低利益の3%については前年度に続いて超過しました。前年比は95.0%▲9,950千円、予算比は101.6%+2,933千円でした。決算処理、特別利益及び特別損失を処理した上での当期純利益は、131,931千円となりました。収益比2.4%、予算比71.2%・前年比86.7%の到達です。全職員と共同組織の力で、14品質目標の第5の柱である3%必要利益の確保は見事に達成しました。

事業収益は予算比98.1%・前年比100.9%となり予算未到達、事業費用は同98.1%・同101.1%で予算範囲での遂行となりました。今年度より外税処理を行っており、事業収益を同一条件で前年比較した場合はさらに15,682千円(預かり消費税)の上乗せでの対比となり、この場合は前年比101.2%となります。収益構成は医業76.6%・介護23.4%で、13年に続いて僅かに介護収益比率が低下しました。前年比較では、医業101.5%・介護98.8%となりました。年間通して全病床運用となった入院分野は、予算比100.5%・前年比104.4%と超過達成しました。外来分野は予算・前年共に乖離した状況となりました。介護分野は、前年に続いて居宅・施設・その他介護の全てで予算未達成、全体では大幅な乖離となりました。居宅収益では、たんぽぽの大型化に関しては旧ひまわり分の収益を吸収し切れていないこと、総合ケアステーション山科南は伸び悩んでいます。

事業費用については、予算比98.1%(▲99,849千円)前年実績比101.1%(57,126千円)となりました。人件費が予算費97.0%・前年比100.7%であり、当初予測の2%の伸びを低く抑えられたことが最大の特徴です。消費税の処理方法が前期と違うため単純比較とはならないが、事業費用のうち人件費など非課税分を除いた事業費用が前年比較で101.2%・1.2%の増加にとどめており、増税の影響は最小限に抑えられた。

主な決算修正では、退職引当金の基準変更に伴う処理43,000千円の特損(民医連会計と公益会計処理では違いが有る)、近畿高等看護専門学校の損失補填3,688千円、第二中央病院での貸倒引当繰り入れなどを実施しました。退職給付引当金は、14年度目標の80%到達に対して52,862千円超過の83.28%となりました。

予算上の第2の柱である「総ての事業所で必要な改訂対応をやりきりながら地域際での機能確立を進め、全エリアで黒字確保(茶山のさと単年度で黒字化)すること」については、第二中央エリア・川端エリア・東山エリア・大宅エリア・洛北・本部で黒字計上しましたが、茶山のさとは残念ながら引き続き年間で僅かに赤字計上となり、全体は課題達成が出来ませんでした。茶山のさとは、無料低額診療事業実施によって固定資産税(予算計上なし)の非課税で交渉を重ねましたが、課税対象となりました。無低以外の事業で一部非課税の対象となり、遡及して5,893千円(当期分1,964千円)の還付となります。よって、茶山のさとでは、課税となった固定資産税のうち1,964千円を控除した4,472千円を費用として計上しました。

【4】事業所管理委員以上の人事(14年4月1日～15年3月31日) 略

【5】その他、重要な処理事項

特になし。

(以上)